

事業実績報告書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 宝塚第一小学校区まちづくり協議会

1 事業名	共生の秋まつり 第4回 宝塚 Ugan まつり
2 事業の内容（実施日、場所、回数、内容、参加者数などを含めて具体的に記入してください。）	実施日 2024年11月16日（土曜） 場 所 武庫川河川敷右岸芝生広場 回 数 まつりは年1回秋に実施。2024年で4回目 目 的 「様々な人々がこの街で暮らしていることが地域の魅力」であることを次世代の子どもに伝える 内 容 『命と共生 遊びと食でつながる 秋祭り』がテーマ。市民の手作りブース「あそぶ、たべる、やってみる、つくる、かう」の約30あまりが勢ぞろい“子どもが楽しめる縁日”になっています。屋台はプロの方でなく市民の手づくりブース。子ども遊び学びエリアでは恐竜つりなど、まち協環境部会が寄せ植えづくり。食エリアは地域のお店やマルシェ運営者が弁当販売。グッズ販売は障害者団体などが担当。広場に櫓を立てて、宝塚市歌のコーラス隊や発達障害支援グループ「COCO 育さんのコント」、手話サークルが手話歌を披露、タンサンポルカに合わせてフォークダンスを楽しみました。この多様性が「共生のまつり」の魅力です。 参加者数 約1000人
3 市制70周年をお祝いした内容	（1）市制70周年をお祝いし、宝塚市歌をオープニングで、地元で市民合唱隊を組織して歌いました。後半では山崎市長も参加いただきました  （2）70年のお祝いとして、手話言語条例施行の年として、手話サークルと参加者で「手のひらを太陽に」を歌いました

4 事業の効果・成果

- (1) 宝塚第一小学校区まちづくり協議会では、市民間の理解、市民と行政、事業者とが役割分担をして「自分たちのまち自分たちで考え、市民参加で共に創る」というパートナーシップの精神を基本に「共生」「共創」のまちづくりを推進してきました。これが具現化されました。
- (2) 阪神淡路大震災 30 年。その最大の教訓は「防災福祉コミュニティ」づくり。祭りや防災訓練を継続し。顔の見える“つながり”が広がりました
- (3) 宝塚市の第 6 次総合計画の「一小校区まちづくり計画」では、宝塚南口・武庫川右岸のにぎわいづくり等が重点課題としています。この具体的な事業展開であり、市民、事業者、NPO など関係者が 1 つの目的でつながりました。
- (4) 車いすの方、ろう者、発達障害社など様々な障害特性があっても、まつりでは一体になり、楽しく知り合いになれることが体験的に理解できました。手話で会話をする言語的少数者を「ろう者」への配慮するため、手話通訳を舞台で行いました。

5 実施した安全対策

運営上の課題は、実施場所が河川敷で子どもの転落防止の対策です。約 100 メートル、地域ボランティアを配置する見守体制を実施してきましたが、限界があり、「安全に配慮した地域づくり支援」として安全対策として 5 人の警備員を雇用して配置しました。宝塚市 70 周年の助成金は、主に、この人件費に使用しました。安全に子どもたちが遊び家族が芝生広場で集える機会を安全に行うことができました。感謝します。